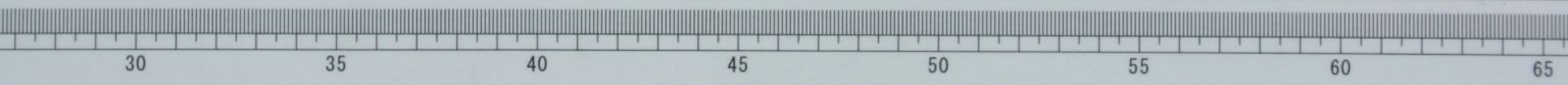




特別
千12
3643
65



満喜自解記

（こは梅若孝法印の日記）

一 都て拍子合之事い予が著せり

謡曲 細格 洋く集と題せし書お
書ふ委述をく程い見ふへ

一 今もあーといく事 生樂也

一 此世いとてといく程の 生涯の也

一 一方向末をかえし 漣也

一 大地とみんまい 屈見也

藤波かめて

一 蒲相の夜乃る

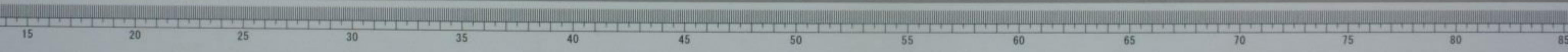
一 一いつ迄の浮せ乃

一 名とたのしむがまきて

一 幸の世ふ義理を陸せり
るを唯法のまきくも小忠度を陸せり
此方と表し諒へ

一 おつうにまはるるんか

一 汝一人おつうなる
右何とて思ふまはるるんか
此のまはるるんか



満喜自解記
石は梅若孝治印のりし

満喜自解記 （こは梅若孝法印のりし）

一 都て拍子合之事ハ予ガ著セシ

謡曲 細格 洋ノ集 と題セシ三巻ヲ

書ル未安述是ノ程ハ見スヘ

一 今ハ世ノ事トシク云フ 生ノ樂也

一 此世トシテトシテ此世ノ 生程也

一 ナル一方行末をカミテ カガミ 體也

一 大地をカミ人まハ カミ 屈見也

附 了也 カミ 屈見也

膝 カミ 屈

一 滿湘セラシテラの夜乃る

合 用

一 一ノ一ノ字の字世乃

一 名とたのりまがまきて

ナリ 常の世ハ 義理を隠セリ

名 唯法のまきくも忠度を隠セリ

世 方と表子 諷也

一 お詠うにまはるも人ノ哉

一 汝一人お詠うなる

古 何と愚の字はいふ 一 疎の字なる

一 共尔白旗ををひりて交は敵を待たし

此取通例の如く尔静に軽く苗はが次の流シテの出を待せどとの決也

是尔准なる尔

漢一とナリを衣取ま

之流氏の記とせん

恨ハ文尔畫と備

右の類皆同様也

一世をとはひきと係文字は事

世成之洛川の洞代乃浪

月の夜か希尔刃をれ世を控人

右の類世の假字成緩やうにがー伸は

やうにして次のを尔うつちががー伸也

とされいひらはまりて寤屋子少ゆ也

言ハ汗木のいよ

一 さんい其世尔何屋し時ハ

詠ハ後麻もる

忠度とヤ〜人ハ

さんいと忠度との出せうおられて氣

のぬけぬ格も出は〜去取〜又餘

逃かけてさ〜り かるまー 極合

一 遙尔をきく流まけり

此句尻乃節本其章にハ尔付とれた下は印尔汎也 但一とこと専用

是尔准なる尔

○ いかあは人よま〜るゆひ

○ 共尔流氏をる〜之小

何とこと 同様

一 さむる〜い〜い〜

一 世とありぬ乃

同新まらぶれチニチラコ者務チニチラコなり

又

くはけき旅コリヤイをコリヤイいかにコリヤイせん

何とと大方同一振合也

一クセの前サレの苗ハ何とと心持あは
文句のも乃也

是皆世上の有様なり

是も浮世のおひや

是等の類也解ハ准知トク

文句の去成汲て心持を之

鼓と心持を意して心を打とぬき

随て云ふ曉乃多敬るんと言又

盛久の蕭然としてせしりと云又

新九布方より手とうさぬハ面白

又因で云

シテのイウケン乃扇をもふとあ

羽衣社若巻絹の類

是ハ自讃トク心持を何るれを法伸
せうにトクいへきとあ也

一 道行と待遠とのあ不柔吟のもの
之格の節何る事

○ 游のひきと持イふイ

○ 松乃煙水 浪イよイせる

○ 山平ゆけいイ社イもイあイく

又道行をイとイと母とまきか有之

○ いまイこイみイ木イ乃イみイ子イル

○ 於イうイきイ亦イ水イ楫イをイとイえ

一と音より下音ル其前乃竹節より
下は調子ルうつはへき事

○唯もうまにかさるをねる。 家下下とつて下に

○神のまほのゆさくら。 たうまをきに

○送るものをもねる。 今ハうつにはねの

○お雛やおから乃。 節もせおとく

○身代衣恨めしき。 うき世中をとく知て

○日影もあつた。 むせに飛ゆき

○日比屋て。 まら日いきり

○日色くら。 初みとあり

○昔を返に依。 下

○月と数。 をい

○夕陽の影。 あつた

○ごごん。 急満出

○水溝の水。 下

○芭蕉乃。 あつた

○あつた。 あつた

○あつた。 あつた

○あつた。 あつた

○あつた。 あつた

前の調子とつけて

○あつた。 あつた

起るといふ鼓の意也

羽衣 楊貴妃 源氏供養 杜若 草紙洗

三井寺 百萬 桜川 山姥 安達原

東岸坐 海人 天鼓 盛久

およそ此等にあり

但し右の内

楊貴妃 百萬 天鼓

右三番ハトリは拍子にく出は

次第の謡子ハ

一クセは付をふるは

○海人かふまの ○河清ふくやたを

一シリル似て通例のちとあはるとの

○田村ふたつとら ○通感是ハ世田の妻の
合我はあつと

一いつとねくシリル成て本ユリあり鼓と
シリはあともうつとの

○輪蔵 ○雲雀山

一クセは苗まで申入ふるるとの

竹生と山 寝え 東方朔 輪花 常天

龍 虎 文 顔 夜 付 亥 我

右類ハセトロニキトラ東子テ一ツニシタル者ニ

一裾の曲 色の苗よりはきてて文句ある
とありなり

宋女 立田 紅葉狩 熊坂

一次第の謡ルヤ間阿はるとの
場通 一考子限まり

一次第の地ドリ拍子と云ふハ脇能
三返の次第也外ハ

車僧一考子限ハ但し一返也

百おれ心ち記草木 非情草木

是に對して次句

情あり人倫トアリ 有情ノ人倫

是をナサケ阿ちと視ひ来れり心それをもと
是程は同じカ多アしとことと満参がおれ
程なくハ情字をる流あり人倫ト

右に同で云

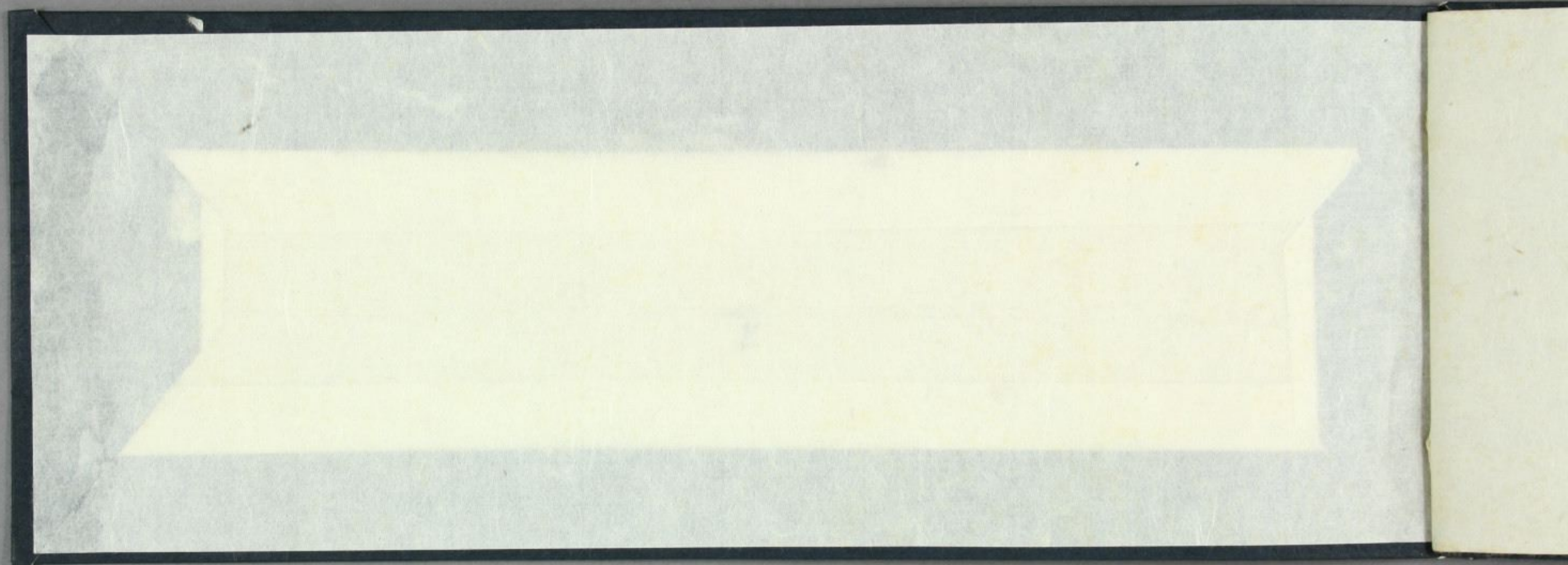
〇いんやちせうはる並道の早い

是也いんやちせうはる並道の早い
是も前句の草木國土ト云て非情ノ對し
とハ次句あまハ濁て情ありといふこと
七情有は情あり人倫ト云又有情ノ人倫ト云
是ハいんやちせうと云るハ情ありといふこと
云文さう云し

〇僅のちいと文句を能く正し灼らめて

視えきさし肝あり

いかに此坊中へあつ内中坊中を濁て
云ハ無祈多ク坊の一因云初と云ふこ
美地の坊と云一坊と云て云はハ坊中と
清て云ハばねバけハ此等こと如
類ハたきさし
此目付中ト云ハ無祈多クのちのみシガ
ゆし



一次第の地下り拍子子よふハ賜能
三返の次第外外ハ
車僧一考子限心 但一返事

○および心子記羊本 非情羊本

是に對して況句 有情人同

情あら人倫トアリ 有情人同
是をササケらちと訊ひ来たり心それと
とに同しあるアとことば多か
れりハ情まをら流る人傳ハ
右に同で云

○いんせとていんせ道の事ハ

とやうにラ法を訊ハせらるト云
是も并句ハ羊本同ト云て非情ハ對
とは次句ふとハ濁て情をこま
書有情あり入るハ又有情ハ情
云文さる之

○僅のちにと文句を能く正し灼らめて
諷之さきり肝也

いかに坊中へあるよ 坊中を滑て
云ハ無所多ク坊の一同云行と云ふ
義理の相も坊へ云て云は坊中
活て云はれけりハ此等ことハ
類ハ坊へさきり
か自付死中ト云ハ無所多クの
めし

